

II 事業の概要等

理事長 宮武 健次郎
学 長 宮田 興子

学校法人神戸薬科大学第1期中期計画（平成28年度～平成32年度）の3年目となる平成30年度は、中期計画をもとに教育、研究及び生涯研修に係る10項目を重点項目として事業を実施した。平成28年度から取り組んできた中期計画は、北河前学長が率先して確実に遂行した結果、概ね達成することができた。

平成29年9月竣工の地域連携サテライトセンターにおいて、平成30年度は地域住民を対象とした健康サポートセミナーを11回開催し、そのセミナー終了後8回、血管年齢・骨密度等の健康度測定に学生も加わり、地域の中での学生の学修拠点として活用した。

卒業生に母校への関心を持ってもらうことを目的として、第2回ホームカミングデーを10月6日（日）に開催した。今回は、ききょう祭とオープンキャンパスが開催される同日に開催し、大学祭の雰囲気を感じていただけるよう配慮した。

広報については、近況ニュースや最新データをタイムリーに掲載し、ドローンによる本学の昼間と夜間のコントラストのある景観を紹介するとともに、学外への情報発信に注力した。

1. 教育環境整備

- (1) 平成30年度は、大学の理念、教育目標及び前年度に制定した3つのポリシー（①アドミッション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③ディプロマ・ポリシー）に基づき、入学試験により入学学生を選抜した。現在、講義・実習・卒業研究などの教育を行っており、卒業時に薬剤師として必要な知識、技能、態度を身に付け所定の単位を修得した者に学位記を授与する。
- (2) 薬剤師国家試験の更なる合格率向上を目指し、平成30年度も引き続き国家試験対策については学長及び学長特命補佐（国家試験対策、統合教育推進担当）を中心に実施し、弱点科目を補強しながら、総合薬学講座定期試験に複合問題を取り入れ、対策を継続した。第104回薬剤師国家試験における新卒の合格率は、93.50%（第103回合格率92.13%、第102回合格率95.08%、第101回合格率95.02%、第100回合格率72.58%）と好成績であり、前回第103回よりは合格率が約1.4%上昇した。
- (3) 留年生減少対策として、低学力学生に対して薬学基礎教育センター教員及び特任教授等による有機化学等についての学修支援を引続き実施したが、十分な結果は得られなかった。また、薬学共用試験において複数名の不合格者が出た。新入生については、入試委員会と薬学基礎教育センターの協力の下、入学前教育の充実を引続き図った。
- (4) カリキュラム改正については、平成29年度に2015カリキュラムの中間見直しを行った結果、「薬物治療学」と「薬理学」の時間数不足が判明したため、平成30年度のカリキュラムからそれぞれ1単位（必修）ずつ増やした。
- (5) 平成26年度に制定された「薬学実務実習に関するガイドライン」で定められた薬局と病院の連続実習が、平成31年2月から薬局実習を皮切りにスタートした。薬局実習に引続き実施される病院実習は、5月から始まる。
- (6) 学長裁量経費を利用した学内応募型補助金により、統合教育や新しい教育法の導入による教育の改善を積極的に支援するとともに、生涯教育と連携した学部教育や地域と連携した教育を推進し、6月に公開報告会を実施した。

平成30年度学長裁量経費による教育改革プログラムの選考結果は、以下のとおりである。

- ①統合教育、新しい教育法の導入による教育の改善；3件 115万円（2件継続、1件新規）
②生涯教育と連携した学部教育、地域と連携した教育；4件 155万円（2件継続、2件新規）
- (7) 学生の英語力を強化するため、引き続き TOIEC L&R の受験補助を継続した。

TOIEC L&R 受験者

6月9日（土）229人

（1年95人、2年43人、3年26人、4年26人、5年25人、6年14人）

11月17日（土）96人

（1年36人、2年14人、3年19人、4年9人、5年17人、6年1人）

- (8) 薬用植物園を教育へ活用するために、平成31年度に薬用植物園に専任教員の配置をしたが、それに先立ち薬用植物園トライアル実習を10月に4日間実施した。1年生15名が参加し、薬用植物の形態観察、薬効部位の確認及び成分確認試験、化学反応式に基づく植物染色試験を行った。
- (9) 平成30年4月1日から学内全面禁煙とすることは、2年前の平成28年7月25日の教授会で決定された。それに基づき、平成30年度新入生全員を対象に早期体験学習の中で「禁煙について」の講義テーマで薬剤師及び医師による禁煙教育を4月に実施した。

2. 研究推進事業

- (1) 関西学院高等部との高大連携及び関西学院大学理工学部との共同研究の可能性を求めて、7月30日(月)に初めて連携協議を行った。関西学院高等部とは、10月12日(金)に、関西学院大学理工学部とは10月23日(火)に再度協議を行った。
関西学院高等部とは、12月25日に本学において高大連携協定を締結するに至り、同年度に実施した入学試験において、2名が出願し、その内1名が入学した。
- (2) 神戸大学とは、平成19年に連携協定を締結し学部において「初期体験臨床実習（1年次）」、「I P W演習（5年次）」を合同開講科目として実施しているが、大学院医学研究科とも研究連携を行うため6月19日(火)に第1回協議会を開催し、その後数回の協議を行った。その結果、平成31年2月22日(金)に神戸大学医学部シスメックスホールにて神戸大学・神戸薬科大学合同シンポジウムを開催するに至った。
- (3) 各研究室からの他大学等の共同研究計画の申請に基づき、共同研究委員会において承認された共同研究を実施し、研究の振興と充実を図った。また、実施する共同研究について私立大学等経常費補助金特別補助の『大学間連携等による共同研究』に補助金申請を行い、交付を受けた。
- (4) 学長裁量経費を使用して、神戸市医療産業都市との連携も図り、学内の13研究室、中央分析室、医療統計学研究室、エクステンションセンター及び地域連携サテライトセンター参画の学内共同研究のもと、研究テーマ「地域薬学研究と薬学基盤研究の融合が拓くシンビオティック健康サポート研究拠点」に関する研究事業を立ち上げ、文部科学省私立大学研究ブランディング事業として補助金申請を行ったが、採択には至らなかった。
- (5) 科学研究費助成事業についても継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み35件76,960千円（直接経費）の交付を受けた。
- (6) 厚生労働省による高額医薬品の価格算定に係る費用対効果評価に関して、医療統計学研究室森脇准教授が国立保健医療科学院よりオプジーボ（ニボルマブ）についての費用対効果評価における検証業務を受託した。
- (7) 補助金の募集がない価格帯の研究機器（中型研究機器）について、大型研究機器と同様に計画的に整備を図るために、平成29年度から積立を行っている。

3. キャンパス整備

- (1) 新8号館に続くキャンパス整備、特に新2、3号館の建築については、キャンパスプランワーキンググループの答申を受けて大学運営会議で基本骨格を検討し、それを土台に新2、3号館建築委員会を中心に平成30年中に委員会(案)を提出、その後大学運営会議で年末まで検討を進め、方針を固める予定であったが、図書館を現在同様のスタイルとする意見と将来更に電子化が進むことを意識した新しい図書館を希求する意見に分かれた。その結果、他大学の図書館見学を実施し、情報収集に努めた。
- (2) 女子寮全室個室化の工事が7月に完了し、六甲アイランドにある神戸女子学生会館から8月3日(金)～4日(土)の2日間で引越しを行い、快適な寮生活を送る態勢が整った。
- (3) 男子寮については、平成31年3月31日をもって閉寮した。その後、男子寮を売却し、その費用をもって本学キャンパスから半径2km以内で需要のある女子寮建設用地を確保、建設し、民間事業者に寮の運営を委託するとの方針が決定していたが、学内校地にもある程度の収容数が確保できる寮が建設可能であることが判明した。どちらを選択するかについては、平成31年度入学試験での入寮願提出者数と実際に入寮できなかった数を参考データとして検討することに決定した。
- (4) 新2、3号館の建設計画に伴い、仮移転先となる1号館改修工事に先立ち事前調査をしたところ、天井吹付材に石綿が含有されていることが判明した。同材が露出している62室について空気環境測定による飛散状況調査の結果は、全室石綿濃度はWHO環境保健クライテリアに照らして十分低い数値であった。しかし、今後地震による剥離などによって石綿濃度が増加することも想定し、2月13日(水)臨時理事会において学生の講義、実習等に影響が出ないように計画的かつ早急に石綿を除去することを決定し、実行した。
- (5) 平成29年9月の台風時に、3号館西側斜面からの落石により隣家の物置が破損した。物置は本学が修理することで納得されたが、斜面の形状等から今後も落石及び斜面の崩落の危険性を孕んでいることから、調査を実施した。調査の結果、斜面に表層から2m程度の堆積物があることが確認され、いつ崩落してもおかしくない範囲が広範囲に及んでいることから、10月22日(月)理事会において3号館西側斜面工事を実施することが決定し、実行した。

4. 組織の見直し

- (1) 平成29年度から副学長を2名体制とし、各々の役割分担を定め、学長のガバナンス強化及び各事業の円滑な推進を図った。
- (2) センター機能をより一層充実させることを目的として、薬学臨床教育・研究センターを実務実習部門と教育研究部門に、薬学基礎教育センターを基礎教育部門と総合教育部門に分け、教員を再配置した。
- (3) 平成29年4月からスタートした事務職員の人事考課制度も今年度で2回目を迎えた。初年度の考課結果についてはいくつか改善を要する事態が発生したが、考課直前の12月に評価基準の統一を図るため考課研修会を開催したこともあり、今年度はスムーズに終了した。
- (4) 事務職員については、平成29年度から3年間に亘って定年退職者が複数あることから、平成29年4月1日付で3名、平成30年4月1日付で4名、平成31年4月1日付で2名の職員を採用した。
- (5) 平成22年度に学生課と就職課を統合した学生就職課が、平成30年度から学生課とキャリア支援課に分離、改組し、新たな陣容で船出した。

5. キャリア支援

- (1) 学生へのキャリア支援は、5年生への就職ガイダンス(6回実施)を中心に、各種ガイダンスを付加する形で実施している。詳細は、次の通りである。

- (2) 学生がキャリアデザインを身につけ、バランスの良い進路が確保できるように4年生前期に「キャリアデザイン講座」（専門選択科目1単位）を開講している。

①全学年対象 (人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
ビジネス・マナー講座	190	112	183	146	124
保護者のための就職ガイダンス	102	37	66	61	47
キャリアガイダンス「6年次生 内定者による就活体験報告会」	38	49	25	35	41
仕事研究講座	74	70	28	19	30
就職フェア	440	393	418	390	320

②6年生対象 (人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
病院ガイダンス	241	114	116	110	126
公務員ガイダンス	25	25	80	50	53
公務員試験対策講座	70	39	25	36	27
模擬面接・模擬グループディスカ ッション	50	67	39	49	69
論作文対策講座	80	84	120	100	85

③5年生対象 (人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
就職ガイダンス	1,203	1,021	1,361	1,331	1,170
模擬面接・模擬グループディスカ ッション	111	84	136	170	186

④4～5年生対象 (人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
単位制インターンシップガイダ ンス	197	296	78	63	—
「インターンシップ」エントリー シートの書き方ガイダンス	199	88	—	—	—

- (3) 学生がキャリアデザインを身につけ、バランスの良い進路が確保できるように4年生前期に「キャリアデザイン講座」（専門選択科目1単位）を開講している。

4年生対象（専門選択科目） (人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
「キャリアデザイン講座」受講者	249	269	270	209	227

6. 学生支援

- (1) 学生の現況を把握できるよう、昨年に引き続き、クラス担任による1年生との面談を実施した。
- (2) 平成30年度は大阪府北部を震源とする地震や台風、西日本豪雨などの自然災害が多発した。本学学生で被災（半壊以上を対象）した学生3名に対し授業料の減免措置をとった。
- (3) 学部奨学金制度の充実を図り、各学年の成績上位者20名（計120名）に対し奨学金を給付した。
- (4) 企業（阪神調剤ホールディング株式会社）からの寄付金を活用した奨学生制度を創設し、4名に対し奨学金を給付した。
- (5) 公益財団法人大阪コミュニティ財団（大井昌子奨学基金）から、給付型奨学金の申し出があり、5年次生及び6年次生各1名が採用された。

7. 入学試験

平成31年度の入学試験〔推薦、センター利用、一般（前期、中期、後期）〕において、18歳人口の減少に伴い出願者数が前年度比91.1%と約9%減少した。出願者数減少の原因が単に18歳人口減少によるものだけなのか、原因究明と対策が求められる。

前年度は、合格者数を減らし入学定員270人に極力近づけるように努力した。その結果、3月下旬に徳島大学薬学部が追加合格者を出した影響により2人の辞退者が発生し、入学定員270人に対し入学予定者268人と、2人の定員割れが発生したが追加合格による補充は行わなかった。本年度は予想以上に入学手続き率が高く、入学手続き者は361人であったが、3月23日以降に国公立を含めて他大学の追加合格が多数あり、その影響で最終入学辞退者が74人発生した、昨年の入学辞退者は51人と比べると1.45倍であった。

その結果、入学定員270人に対し入学予定者287人と、定員の1.06倍となった。

入試形態		出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	公募制	582 (607)	542 (559)	152 (134)	62 (56)
	指定校制	53 (58)	53 (58)	53 (58)	53 (58)
一般入試(前期)		918 (1,075)	880 (1,017)	350 (320)	125 (106)
一般入試(中期)		471 (565)	316 (396)	20 (45)	11 (30)
一般入試(後期)		215 (206)	201 (197)	8 (17)	7 (13)
大学入試センター利用入試		457 (452)	456 (450)	201 (124)	29 (5)
合計		2,696 (2,960)	2,448 (2,677)	784 (698)	287 (268)

〔単位：人、（ ）は前年度を示す〕

8. 連携事業推進

- (1) 地域連携サテライトセンターが平成29年9月1日に竣工し、地域連携の拠点として活動を開始した。平成30年度は、地域住民対象の「健康サポートセミナー」計11回を東灘区役所との連携事業として実施し、東灘区役所との定期的な話し合いも行った。また、地域住民対象の「くすりと健康セミナー」を計6回、薬剤師対象の「薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー」を計3回実施した。
- (2) 神戸大学との連携事業を引き続き実施した。神戸大学医学部との連携で行う多職種連携教育として、1年生の「初期臨床体験実習」及び5年生の「IPW演習」をそれぞれ実施した。また、5年生1人、6年生各2人の学生が神戸大学医学部附属病院薬剤部で卒業研究を行った。神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデントについては、1年間の研修を2人が修了すると共に、2年目のアドバンストコースの研修を1人が修了した。

- (3) 大阪大学を中心に、連携校として参加している文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（第3期がんプロ）「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」事業の2年目（5年事業）として、本学主催の第11回がんプロ講演会を7月7日に「肺がん治療の最前線」をテーマにがんプロ講演会を予定していたが台風により中止となった。第12回がんプロ講演会は、10月27日に「小児がん治療」をテーマに開催した。
- (4) 今年度もマサチューセッツ薬科健康科学大学（MC PHS）及び昭和ボストン校の協力による4、5年生前期「海外薬学研修」を実施し、14人（平成29年度14人）の学生が日米における薬剤師業務の相違の見聞を通して、医療現場での国際的視野を涵養した。
また、それに先立ち1月27日から31日まで長谷川教授がMC PHSに出張し、今後の共同研究の可能性について9名の研究者と意見交換を行った。問題点として、①英語力、②滞在する住居費が高い、③臨床研究計画及び動物実験計画承認に時間がかかる、④何らかの形で研究費を持ち込む必要がある、ことが判明した。
- (5) 平成31年度からの甲南女子大学との連携授業実施に向け、7月30日（月）甲南女子大学において連携授業トライアルを行い、平成31年度から「在宅医療演習」を合同科目として開講することになった。
- (6) 神戸薬科大学は、病院、大学、行政が一体となって優れた若手医療人材システムの新たなモデルを構築することを目的とした東灘次世代医療人材育成コンソーシアムの構成員として参画した。他の構成員は、呼びかけ人である甲南病院、甲南大学、甲南女子大学、東灘区役所である。11/17（土）設立総会・調印式が行われ、コンソーシアムが正式に発足した。キックオフ公開市民講座は、令和元年7月開催予定である。

9. 自己点検・評価

- (1) 平成28年度から取り組んできた第1期中期計画（平成28年度～平成32年度）の進捗状況について自己点検・評価委員会を開催し、未実施及び継続中の項目を中心に検討を行った。
- (2) （公財）大学基準協会の第二期大学評価（認証評価）によって指摘された改善勧告1件及び努力課題3件についての回答（案）を、自己点検・評価委員会で検討した結果、検討内容を改善報告書に反映し作成することに決定した。
- (3) （一社）薬学教育評価機構の薬学教育評価によって指摘された改善すべき点11件及び助言2件について、自己点検・評価委員会を開催し、指摘事項で未だ着手できていないもの及び他大学に調査中である内容について確認を行った。未着手及び調査中案件については、早急に対応し、改善報告書が作成できるようにしていくことを確認した。
- (4) 常設する全ての委員会、教育研究支援組織及びそれを補佐する事務部門が8月に自己点検・評価を行った。また、提出された自己点検・評価内容を3月に自己点検・評価委員会で精査し、問題点については各委員会、教育研究支援組織及びそれを補佐する事務部門にフィードバックし、自己点検・評価内容の充実と改善、検討を依頼した。

10. 生涯研修事業

- (1) 「健康食品領域研修認定薬剤師制度」の公益社団法人薬剤師認定制度認証機構の特定領域認定制度（P）への認証申請を平成29年3月17日に行っていたところ、同年12月15日にP05の認証を受けた。生涯研修認定制度（G07）と特定領域制度（P05）の両方を併せ持つのは、本学が初めてである。なお、新制度である「健康食品領域研修認定薬剤師」の認定を取得するには「研修認定薬剤師」を予め取得した者が、健康食品領域の研修を受講した上で論文審査に合格する必要がある。2019年4月には、本学で初めてとなる「健康食品領域研修認定薬剤師」が6名誕生する。

- (2) 卒後研修講座；第 44 回「疾患を学ぼう 薬剤師に必要な 8 疾患 その二（糖尿病、精神・神経疾患、がん）」をテーマに実施し、受講者は 601 人（平成 29 年度 649 人、平成 28 年度 508 人、平成 27 年度 679 人、平成 26 年度 680 人）であった。
- (3) リカレントセミナー；第 84 回～第 88 回の計 5 回（うち、第 86 回は台風のため中止）の研修会を実施し、受講者は 190 人（平成 29 年度 298 人、平成 28 年度 606 人、平成 27 年度 517 人、平成 26 年度 400 人）であった。
- 第 84 回；「緩和ケアについて」
第 85 回；「SGD による検査値の理解（副作用の早期発見のために）」
第 86 回；「SGD による検査値の理解（治療効果の把握のために）」（台風のため中止）
第 87 回；「薬剤師に必要な疾患を学ぼう－呼吸器系感染症（肺炎、結核、インフルエンザ）－」
第 88 回；「フィジカルアセスメント－基本手技から臨床現場への応用まで－」
- (4) 薬剤師実践塾；第 46 回～第 50 回の計 5 回の「在宅医療研修」ほかを実施し、受講者は 92 人（平成 29 年 57 人、平成 28 年度 108 人、平成 27 年度 76 人、平成 26 年度 103 人）であった。
- 第 46 回；「薬剤師に求められるコミュニケーション力、医療人としてのスピリッツを学び、実践エクササイズで「Motivational Interviewing（動機付け面接）」を身に付ける」
第 47 回；「多職種連携と在宅医療における薬剤師の役割」
第 48 回；「輸液療法の実践－症例検討処方提案－」
第 49 回；「輸液調製の初歩－配合変換と輸液のミキシング－」
第 50 回；「在宅医療に必要なアセスメント」
- (5) 症例検討会；第 4 回～第 7 回の計 4 回の「SGD による症例検討会」を実施し、受講者は 70 人（平成 29 年度 86 人）であった。
- 第 4 回；「どうやって伝える？抗癌剤の副作用に対する指導と次回の薬物療法の提案について考えよう！」
「在宅医療から情報共有の方法を考えよう！～「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」に基づく薬物療法の提案を行った症例を通して～」
第 5 回；「薬剤師なら知っておきたい！高齢者の誤嚥性肺炎について」
「在宅医療で嚥下障害のある患者へ、薬剤師ができる薬物治療の提案」
第 6 回；「すべての薬剤師が学ぶべき災害医療とは」
第 7 回；「経腸栄養管理の微量元素欠乏における薬剤師の関わり」
「高齢者在宅医療の長期栄養管理で生じる問題点と薬学的介入」
- (6) 健康食品講座；第 23 回～第 27 回（健康食品に関する最近の話題と製品情報）の計 4 回実施し、受講者は 269 人（平成 29 年度 276 人、平成 28 年度 518 人、平成 27 年度 511 人、平成 26 年度 587 人）であった。
- (7) 第 11 回シンポジウム；「これからの薬剤師と生涯研修－薬剤師の社会的役割の向上と職能の高度化を目指して－」をテーマに実施し、受講者は 110 人（平成 29 年度 98 人、平成 28 年度 164 人、平成 27 年度 108 人、平成 26 年度 195 人）であった。
- (8) 平成 30 年度で 6 年目となる「在宅医療を支援する指導薬剤師養成プログラム」では、1 人（募集人数 5 人）の受講者が在宅医療を推進している神戸市垂水区エナガの会との連携に関する協定（平成 31 年 2 月締結）に基づき、多職種による症例検討会や在宅患者宅への訪問同行、診療見学、地域包括支援センターでの研修を実施した。
- (9) 平成 30 年度の研修認定薬剤師証交付数は、新規 12 件、更新 71 件（平成 29 年度新規 23 件、更新 97 件、平成 28 年度新規 39 件、更新 84 件、平成 27 年度新規 16 件、更新 82 件）であった。

(人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
卒後研修講座	601	649	508	679	680
リカレントセミナー	190	298	606	517	400
薬剤師実践塾	92	57	108	76	103
症例検討会	70	86	—	—	—
健康食品講座	269	276	518	511	587
シンポジウム	110	98	164	108	195
研修認定薬剤師証交付数	新規 12	新規 23	新規 39	新規 16	—
	更新 71	更新 97	更新 84	更新 82	—

11. 諸規程の改正等

(1) 制定（4規程）

- ・神戸薬科大学における障害学生支援に関する規程
- ・神戸薬科大学における障害学生支援に関する実施細則
- ・神戸薬科大学海外出張旅費規程
- ・神戸薬科大学桔梗育友会特別奨学生規程

(2) 改正

- ・神戸薬科大学就業規則ほか 36 規程

12. その他

(1) 平成 30 年度の F D ・ S D 研修会を、次のとおり実施した。

8月27日－薬学教育（6年制）第三者評価 第2期評価基準について（F D ・ S D）
（中山尋量副学長）

6月9日－薬学研究教育の現状と今後～大阪大学の取組について（F D ・ S D）
（堤 康央 大阪大学大学院薬学研究科教授）

3月14日－コンプライアンス（ハラスメント）研修（S D）
（大谷邦郎 元毎日放送宣伝部長）

(2) 全職員と学生を対象とした防災避難訓練を、10月22日に実施した。訓練終了後、消火器と消火栓の使用訓練も併せて実施した。

(3) 「心の健康チェック」制度に基づくストレスチェックを実施し、教職員の心の健康の維持、改善、職場環境の向上に努めた。

7月23日～7月30日；ストレスチェック調査期間

8月8日；ストレスチェック回収調査表を分析機関に提出

10月10日；ストレスチェック結果を受検者に配布

(4) 平成 30 年 4 月 1 日から学内全面禁煙とすることは、平成 28 年 7 月 25 日教授会で既に決定していた。それに伴い、学生心得細則の改正及び入試要項に出願資格として「入学後、たばこを吸わないことを確約できる者」と記載するなど、平成 30 年 4 月入学者に向けて準備を進めた。

以上